



信州大学教育学部附属長野小学校学校だより

題字：副校長、文責：教頭



今回は12月の副校長講話の様子をお伝えします。今回のお話は、「信濃の国」を巡る講話の第5回、最終回となりました。いよいよ第1位の場所からのライブ中継です。

校歌「信濃の国」を巡る

(12月4日 副校長講話)

第5回 ～天龍峡 天龍ライン下り～

全校のみなさん、おはようございます。

さて、今日はいよいよ第一位の発表です。では、早速発表します！信濃の国巡り第1位は、ジャカジャカジャカジャン！天竜川です！学校から約3時間の場所です。

実は、今から100年以上前に、信濃の国を作詞した浅井冽先生も、子ども達と共にここを訪れていたんですね。この「信濃の国」物語という本を読むと、子ども達と一緒に、この場所であることに挑戦していたことが記録されています。みなさん何だと思いませんか？それは、こちらです！そうです！この船は木でできていますが、この木の船に乗って天竜川を下ることに子ども達と一緒に挑戦していたんですね。

そこで、わたしも乗って天竜川を船で下ってみたい！と思ったのですが、12月の船の運航時間を調べたところ10時30分出発なんですね。残念ながらこの朝の時間は、運航していないんですね。残念！と思ったのですが、でも、どうしても乗りたいと思って、だめでもともとだと思って、船会社の社長さんをお願いしてみたんですね。そしたらね、「長野小学校の子ども達が見ているのであれば！そのためでしたら！」と、通常は決まった時間ですが、この船を特別なおはからいにより、この朝の時間に出して下さることになったんですね。

ご紹介します。「天龍ライン下り」この道30年 社長のHさん、この道20年のYさんです。Hさん、Yさんどうぞよろしくお願ひ致します！ありがとうございます！では早速乗ってみましょう！「レッツ ゴー！」、ドキドキしますね。湖などでは船に乗ったことはありましたが、川で船に乗るのはなかなかありませんね。では、ここからは、H社長さんに、自ら船頭さんとガイドさんを両方やっでご案内いただけるということですので、Hさんすみませんがよろしくお願い致します。

乗船して中継

副校長「天竜川がゆっくり流れています。今日は社長さん自らご案内をしてくださいます。こちらが先頭で、後ろのYさんが舵を取ってくださっています。」

H社長「今日はちょうど、川から朝霧が出ていますね。」

副校長「すごい、川から霧が出ていますね。」

H社長「面白い形をした岩がありますのでね。見ていきましょう。」

H社長「天竜川にもね、鯛がいるんですよ」

副校長「いるんですか？あつ、岩があります。なるほど。これ、これ、見えますか。」

副校長「ここにある白い岩は花崗岩という岩ですね。もともと地下30キロにある岩なんです、ここが隆起して、盛り上がり、今この天龍峡を作っているそうです。」

H社長「ここに面白い形の岩がありまして、穴の空いた岩です。」

副校長「削れたあとですかね。みなさん、以前、寝覚めの床で穴を見たのを覚えていますかね。」



【鯛の顔】

あれと同じ作りなんです。」

副校長「あっ、こちらは、右側が亀さんと左側がアザラシさん。見えませんか？」

H社長「こちらがワンちゃん、ブルドックのようですね。」

副校長「ワンちゃん、面白いですね。自然にできたんですか。」

H社長「そうです。自然です。ここにある黒っぽい岩と白い部分が見えますか？大水でここまで水が来たんですね。」

副校長「角が丸くなっていますね。水の力はすごいですね。」

H社長「こちらには、人が倒れているような岩があります。」

副校長「あっ、足が上で頭が下。すごいですね。自然にできるんですね。」

H社長「こちら、高く聳え立っている岩。天龍峡のシンボルで、龍角峯。龍が天に舞い上がっていく様子です。」

副校長「すごいですね。天竜川の名前の由来のような立派な岩ですね。」

H社長「こちらの部分が背中のように、ゴツゴツしていますね。」

副校長「これ、天龍峡一の高さの岩ですか。50mくらいありますか？」

H社長「60mありますね。」

副校長「高いですね。」

H社長「今度は、吊り橋があります。」

副校長「つつじ橋ですね。高くて渡るのが怖いですね。」

H社長「ここで網を打ってみたいと思います。」

副校長「みなさん、投網だそうです。社長さんが今、網を打ってくださるそうです。」

(ここでH社長さんが、投網を実演してくださいました。)



【アザラシとカメ】



【龍角峯】

質問

1年1組Aさん「長野県のどこら辺にありますか？」

H社長「長野県は長い県ですね。下の方、南の方にあります。」

副校長「私は、今日来るのに3時間かかりました。」

6年2組Bさん「深さはどれくらいですか？」

H社長「深いところで8mくらい」

2年1組Cさん「天竜川の長さは何のくらいですか？」

H社長「213kmです。真ん中くらいがこの天龍峡になります。」

副校長「どんなお魚がいるんですか？」

H社長「オイカワ、ナマズ、鯉などがいます。」



【投網の実演】

終わりに

今年は、これまで5回信濃の国を巡ってきましたが、あることに気づきました。それは、浅井冽先生は、信濃の国に出てくる名勝を必ず自分の足で歩いてきたということです。そして、多くの場所を必ず子ども達と一緒に訪れていました。そこで、浅井先生はきっと子ども達と一緒にいろんな体験をしたり、いろんなことを語り合ったりしてきたんじゃないかなと思うんです。そして、その当時も信州のそれぞれの地で、今日お世話になっておりますHさん、Yさんのように子ども達のことを大切に思う人たちに会ったのではないかなと思うんです。だから、長野県下各地で感じたことを信濃の国という歌に思いを込めて作詞したいと思ったのではないのでしょうか。

今年で附属長野小学校の校歌 信濃の国は、歌い継がれて121年目を迎えています。これからもこの校歌を大切に歌い継いでいきましょう。Hさん、Yさん本日は誠にありがとうございました。では、今日は「つづく」ではなくて「おしまい」。5回の信濃の国巡り見てくれてありがとうございました！それではまた学校で会いましょう！さようなら。